

などの習慣は口腔内を酸性傾向となり虫歯の促進を早めるといわれています。

予防として口腔内を清潔に保つため、**食後の歯磨きが基本**となります。1日2~3回 丁寧に磨き、定期的に歯科医院を受診することも重要です。歯周病菌が血管に入り込み、心筋梗塞・脳卒中・脳梗塞や肺炎を併発する可能性もあり、特に**高齢者の口腔ケア**は大切です。

★★温暖化で 蚊に刺され易いのは 夏よりも秋？ 必死になる理由とは？

猛暑や熱帯夜がヤット過ぎた頃より「秋の蚊は強烈」「蚊取り線香の出番」といわれ、実はこれからが要注意シーズン。殺虫剤大手の大日本除虫菊（KINCHO）広報室によると、「近年 秋が最も蚊が多い季節」としており、**蚊に“刺されやすいのは夏よりも秋”として“必死になる理由”**を説明しています。

蚊は春から個体数が増え始め、**活発に活動するのは気温が27度前後で、30度超えで、日中は木陰や草叢に隠れて休んでいる**。但し 人目につかず世代交代を繰り返しており、個体数が増えきった秋、気温が下がってくると **再び活発に飛び回る**。近年は 残暑が長く、活動期間は長期化の傾向があるといわれています。

国内で人を刺す蚊の代表格はヒトスジシマカとアカイエカのメス。人を刺し、吸血するのは「産卵」に必要な栄養を得るためにされています。成虫の寿命はわずか1ヶ月程。蚊の立場になると涼しくなり、ようやく日中も動けるようになったので、**子孫を残すために“必死”に刺す**のだろう。痒みは唾液の成分に対するアレルギー反応で引き起こされます。

重要な予防対策として、①「**発生させない**」。即ち 植木鉢の受け皿やペットボトルの蓋、ブルーシートのへこみでも、水がたまれば産卵して発生源になる。排水や掃除に努めることが肝心。②「**寄せ付けない**」。蚊は触角で匂い・温度・二酸化炭素などを感知する。そのため元々体温が高い人や汗かきの人、運動や飲酒後などが刺され易い。黒っぽい濃い色も蚊を引き付ける。これらに留意すれば、被害を防ぐことにつながるといわれています。

蚊の活動は27度前後が活発となり、35℃以上・15℃以下で活動が鈍くなる習性があるが、温暖化により、11月頃まで注意が必要。最近では越冬する蚊もいるといわれています。

秋の蚊の よろよろと来て 人を刺す

血を分けし 身とは思はず 蚊の憎さ

ヤット寝た頃に 蚊にまた 起こされる

献血する氣はないぞ 秋の蚊よ

令和7年 残暑

(文責 MMY)



むつみ荘だより
インターネットでも配信中！

あさぎりむつみ荘

検索



携帯電話・スマートフォンでもご覧になれます。

※一部対応していない機種もあります。

—広報編集委員—

